



短期連載 ①

幼少期における家庭での過ごし方の影響

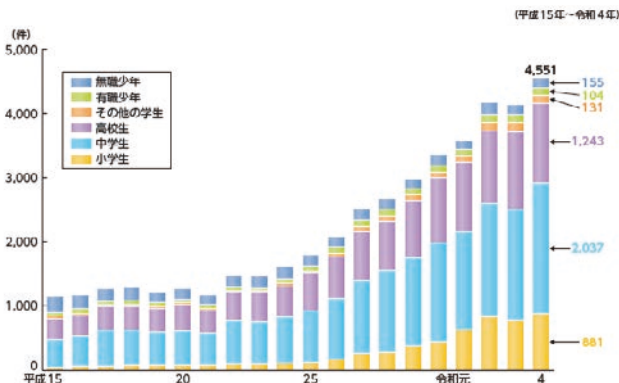
# 1万人を超える犯罪者の心理分析から見た子育ての大切さ

東京未来大学 副学長 こども心理学部長／出口 保行

筆者は、現在所属する大学の教員として着任する前、22年間にわたり法務省の心理職として少年鑑別所・刑務所・拘置所という矯正施設で非行少年（少女も含む、以後同じ）や成人犯罪者の心理分析に当たってきました。なぜ彼ら（彼女らを含む、以後同じ）は犯行に至ったのか、それを詳細に分析する中で、家庭が彼らに与える影響の大きさをつぶさに知ることになりました。また、現在も裁判所の少年事件において法廷証言をしたり、ほぼ毎日のようにテレビの報道番組や情報番組の中で犯罪分析を行っていますから、今の非行や犯罪の現状を知りつつ、その背景にある家庭の重要な役割について分析・言及することが多くあります。

ご存じの通り少年非行の数は少子化の影響を受けて、減少の一途をたどっています（非行少年は昭和26年が第一のピーク、昭和39年が第二のピーク、昭和58年が第三のピークとなりその後は年々減少しています）。しかし、量的には減少していても質的な悪質化は歯止めが利かず、つい先日も中学生がいわゆる「美人局（男女が共謀し、女が他の男と密通した上で言いがかりをつけ、金銭などをゆすりとること）」を行い、男子大学生を死に追いやるといふ事件が起きています。また、社会現象ともなっている「トヘ横キッズ」と呼ばれる家庭に寄り付かない少年・少女の問題も頻繁に紹介されています。

なお、非行の中で唯一増加傾向にあるのが家庭内暴力です。下の図をご覧ください（令和5年版犯罪白書3-1-5-1図）。これを見ても家庭が現在の社会問題と直結していることがわかるでしょう。



令和5年版犯罪白書3-1-5-1

こうした問題の背景には親を含めた監護者の子育ての影響が大きく影を落としていることは言うまでもありません。一昨年に「犯罪心理学者が教えるこどもを呪う言

葉・救う言葉（出口保行著、SB新書）」という本を出版したのは、非行犯罪臨床から得た子育ての問題点を多くの人に伝えるためでした。犯罪心理学者が子育て本を書くということ自体に違和感や場違い感があったのですが、あつという間に重版を重ねて10万部を超えるベストセラーになりました。それだけのニーズがあったということの後から知りました。今回の連載では、この本の中で紹介した事例も使って解説をしたいと思います。

さて、日常生活を送る中で、親や教職員（以後親たちという）が「よかれ」と思ってこどもに声かけすることは多いのではないのでしょうか。親たちにしてみればこどものためを思っている一言。例えば、「みんなと仲良くしなさい」。言ったことがない人はいないのではないのでしょうか。法務省在勤時、我が家は転勤族、それも1年か2年のスパンで全国を転勤していたので、こどもたちは転校の連続でした。新しい環境に慣れるのが本当に大変。そんなときに、例えばいじめの対象にならないように「みんなと仲良くしなさい」と言っていました。しかし、このごく当たり前の一言が、非行につながったケースがあります。

「ワタル」は、両親からいつも「みんなと仲良くしなさい」と言われ続けていました。しかし、その指導は度を越して、「自分の主張をしてはならない」という強烈なものでした。少しでも目立つことをするだけで、「出しゃばるな」と指導されていました。こうする中で彼は人との関わりを断つようになり孤立していきました。そんな時に親切に声をかけてくれたのが、「ミツヤ」。彼は万引きの常習犯でした。ミツヤと打ち解けるうちにワタルも万引きの常習者になっていきました。

このケースでも、あくまで親は「よかれ」と思ってこう言っていたのですが、行き過ぎてしまったことが、ワタルの適切な自己主張能力や自己決定能力を低下させてしまいました。何事についても人の顔色をみながら暮らす習慣が身についてしまい、普通の友だちとの健全な交友関係すら築けなくなってしまっていたのです。そんな時にそっと寄り添ってくれた「ミツヤ」に惹かれ行動を共にしたのはある意味当然なのかもしれません。

集団生活を営む中で、みんなと仲良くして、他者の言うことを聞くことはとても大切なことです。しかし、それが行き過ぎると「刑務所化（プリズンゼーション）」という現象が起きてしまいます。刑務所内では、職員の言うことは絶対です。それは受刑者たちに争いごとをさせず、安心して暮らすことを保証するための手段です。

しかし、これが行き過ぎると、受刑者たちは自ら判断して行動することが少なくなります。

刑務所勤務時、無期懲役で受刑していた受刑者の釈放に立ち会ったことがありました。刑務所に入所したころは社会の中のシステムが大きく変わっているので、最寄駅から電車に乗ろうにも切符の買い方すらわからなくなっています。そんな彼らを駅まで送り、新幹線に乗車するのを手伝ってあげる「乗車保護」という業務に従事しました。彼は何十年も刑務所の中で過ごし、職員の指導をきちんと受け入れていた模範囚ですから、無期懲役ながら仮釈放が許されたわけです。しかし、彼には確実に「刑務所化」が起きていました。駅に着いても自分で何か行動を起そうとしない、これでは新幹線に乗る以前に改札にも入れません。ようやくホームまで辿りついて、何か飲み物で買ってあげようと「少し待っていて」と言い残して売店から帰ってみると、彼はホームの壁に向かって目をつぶり、両腕を後ろに組んで立っていました。そうです、刑務所内で職員に「待て」と言われたときのしぐさそのものです。

笑い話のようですが、本当の話です。これでは社会復帰がスムーズに行くはずがありません。現在では、社会復帰訓練を十分行ってから釈放するのでこんなことはありませんが、「刑務所化」というものを目の当たりにした瞬間でした。

私たち親や教職員には「よかれ」と思ってという一方的な「思い込み」による教育・指導がたくさんあるのではないのでしょうか。もちろん程度問題なことばかりですが、行き過ぎるとこどもに悪影響を与えてしまいます。

こうした「よかれ」と思っての背景には「確認バイアス」という心理が潜んでいます。確認バイアスとは、自分に都合の良い情報は取り入れるが、都合の悪い情報は

捨て去り取り入れないようにすることを意味しています。親たちはあくまで「よかれ」と思っての発言ばかりですから、それを批判的に言う意見を聞き入れない、こうなると自己修正ができなくなって突っ走ってしまいがちです。

日常の指導の中で、常に自分の指導を点検し、他者の意見を聞き入れることが求められます。

私達は**衝撃緩和帽**の開発を通じて大切な子供達の未来を守ってゆきます！

**ゴツン!! から、まもってあげたい。**

子どもの頭を守る帽子

企画・開発 **株式会社リード**  
〒028-6104  
岩手県二戸市米沢字家ノ139-1  
<http://hot-anshin.com//index.php>

お問い合わせはこちら  
**アルファアテンド株式会社**  
TEL 070-5550-1982  
FAX 042-673-2076  
[alpha.attend@gmail.com](mailto:alpha.attend@gmail.com)

この帽子痛くない！



# 子ども同士の壁、大人と子どもの壁

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 安家 周一



保護者の住居地域毎の懇談会を始めてそろそろ45年くらいになります。新米園長の頃、保護者の生の声を聴きたくて始めました。園では年に数回全体会と称して保護者向けに話をする機会がありますが、学年毎の課題や子どもの育ち、園が抱えている悩み、幼児教育界全体の動きなど、どちらかというところ個別案件ではなく大織りの話になり、我が子のことからはかけ離れる場合も多くあると想像されます。

住居地域毎の懇談会では少人数と言うこともあり忌憚のない意見の交換となります。当初の数期間は、園に対する苦情の嵐でした。園の運営、施設設備、人事に始まり、私や担任に対する不満、子ども同士の関係やケガ、保護者同士のトラブルまで、園に帰ってからまとめると精根尽き果てる内容でした。そんな草創期を経て、近頃でも園への不満や素朴な疑問、気になることが話題になることもありますが、どちらかというところ子育てや子どもの育ちに関するところ、小学校との接続期教育などが多く出されるようになりました。特に第一子男子の相談が格段に多いのも特徴です。ある年の保護者のお話です。

**主訴：他の母親から子どもを甘やかしすぎると言われた。何をどう対処したらいいでしょう？**

私は一人息子を持つ母親。子どもに振り回されバタバタしている姿を見て、親しい友人から甘やかせすぎているという指摘。言われてみると確かに思い当たる場所がある。何が甘やかして受容的に子どもを受け入れることとの違いなどの基準がわからない。ほめるのが大切だが、受容しながら切断することも大切だと言われる。しかし何をどうすればいいのか皆目見当がつかない。

これが大方の訴えです。初めて子どもを育てておられるわけで、無我夢中で必死だだと思われれます。我が子を良く育てなければと一生懸命で周りは見えていないわけですから、我が子がどのような状況にあるのかを客観視するのは難しいのは当然です。その姿を見かねた親しい方からの忠告です。

子どもを慈しんで育てる、これは誰しも正しいと言います。又、3歳くらいまでに親や親しい大人と愛着関係を強く結ぶことは何をしておいても肝心、これも本当です。このような共通の価値観は何となく共有されているのですが、かわいがる、慈しむ、受容するなどの抽象的な概念を我が子の育ちに重ね合わせ、適当な判断をするのはことのほか難しいようです。結果的にかわいがりすぎて「甘やかし」の状況になるか、「自立させたい」との思いが強すぎて甘えを受け入れない対応になってしまうこともあるでしょう。当たり前のことではありますが第一子の場合、この調節が判らない方が多くいます。

甘やかされた子どもと甘えられなかった子ども、両極端なように見えますが、意外なことに成人した姿に共通する特徴があります。「他人への依存度が高い」です。いずれも自立することが阻害され、誰かに依存していないと安心できないので不安になります。わがままを主張する子どもに対して、泣かすのはかわいそう、泣かれると長引くのでじゃまくさいなどの理由で言うがままにしているとします。この状態が日常となりますから親と自分と自分の欲求が一体化し、親も子ども共に依存し合う一体感が当たり前となってしまう、将来的に自立（律）が阻害されるわけです。思春期以降起こる家庭内暴力もこれが原因の一つと考えられています。

子どもは自分がわがまま言っていることを理解できていませんからもちろん罪悪感はありません。加えて大人が壁になって遮らないために簡単に思いが通ってしまいます。本来であればだめなことはだめとしっかり壁になることで、本意から子どもは葛藤し悔しがります。悔しがりぐずる姿をみているのはつらいものですが、ぐずる子どもを受容する「大人力」が試されます。子ども側は壁を乗り越える努力や親の機嫌の様子を見て交渉したり、抵抗したりすることで鍛えられ育っていきます。

親側がこのような壁になる対応を気かけると、自分と他人を切り分けられない未分化な段階を経て、徐々に自分と親や他人との考えが違っているという分化が訪れ、自己中心性から脱却していきます。そして、場面や人に応じて我慢する力=自己抑制力や持続して努力する育ちが促され、社会で適応し生きていくことが出来るのでしょうか。

3歳くらいからの幼児に集団生活が意味を成すのは譲ってくれない周りの子どもによって壁を経験するからです。「貸して～」といっても「今使ってるからダメ!」と拒否される経験が大切なのです。

春先、園児迎え入れの時チョウチョが飛来し、捕虫網で捕まえていると年少の子どもが網を貸してと言うので貸しました。すると今度は年長の子どもの自分にもと言って取り合い、けんかになり、双方大泣きしました。お互い網を使い合う主張することでぶつかり、壁にぶち当たる経験をしているのです。思い通りいかない場面に出くわすことで自分を鍛えているともいえます。つくづく子どもは自分の育ちに必要なことを自分で学習する力がある賢い存在だと感じます。大人と子どもも壁ですし、子ども同士にも壁を乗り越え成長するのでしょう。

「ごめんね」「いいよ」の丸く収めるやり取りでは、子どもが壁を感じることはできないのでしょうか。

## 令和6年度事業計画案・収支予算案などを承認

### ● 2.21 第3回理事会

2月21日、第3回理事会がオンラインにて開催され、理事16人が出席しました。安家周一理事長が議長となり、議事録署名人は、満場一致をもって日野彰則理事、錦織昌貴理事が選任されました。

#### 【決議案件】

#### 1、幼稚園ナビに代わる新システム「ゆたかなまナビ」の利用料の承認の件

令和5年10月26日に開催した第2回理事会にて決議された「ゆたかなまナビ」の利用料の在り方を再審議することの動議が出席理事全員の同意により承認され、再審議されることとなりました。

再審議の結果、令和6年度収支予算と関連する事項であることから、令和6年度収支予算を審議する理事会（以下、第4回理事会）まで本案件の審議を延長することの動議が出席理事全員の同意により承認され、併せて第4回理事会で再審議することについても承認されました。

#### 【報告案件】

#### 1、令和6年度以降の組織体制の件

加藤専務理事より令和6年度改選期以降の組織体制の案について説明がありました。

#### 2、業務執行理事からの執行報告の件

宮下副理事長より第15回幼児教育実践学会の第一次案内とシステム移行の状況、川名副理事長より令和6年度賛助会員入会申込書について報告がありました。

### ● 3.29 第4回理事会

3月29日、第4回理事会が対面とオンラインの併用にて開催され、理事17人が出席しました。安家周一理事長が議長となり、議事録署名人は、満場一致をもって安達讓理事、松下瑞良理事が選任されました。

#### 【決議案件】

#### 1、令和5年度補正予算の承認の件

事務室より令和5年度補正予算の説明がありました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

#### 2、令和6年度事業計画の承認の件

加藤専務理事、岡本研究研修委員長、高尾調査広報委員長より令和6年度事業計画の説明があり、安家理事長から全体の見通しの説明がありました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

#### 3、幼稚園ナビに代わる新システム「ゆたかなまナビ」の利用料の承認の件

第3回理事会より継続審議となっている本件について、加藤専務理事から経過の説明がありました。業務執行理事より、新システムを広く利用いただくことを最優先に全日本私立幼稚園連合会からの申し入れを受諾したいという意向が示されました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

#### 4、令和6年度収支予算の承認の件

事務室より令和6年度収支予算と資金調達及び設備投資の見込みについて説明がありました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

#### 5、委員会規程の変更の承認の件

加藤専務理事より、令和6年度以降の組織体制の在り方と既存体制との変更点の説明があり、委員会規程の変更内容について事務室より説明がありました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

#### 6、ECEQ<sup>®</sup>専門部会の取扱いの件

令和6年度以降の組織体制へ変更するために規程上ECEQ<sup>®</sup>専門部会を令和6年5月31日をもって解散し、教育研究委員会ECEQ<sup>®</sup>・評価チームに移行することについて説明がありました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

#### 7、賛助会員入会の承認の件

事務室より賛助会員入会の説明があり、株式会社ICONの入会が満場一致をもって承認されました。

#### 8、令和6年度第1回評議員会の開催の件

議長より令和6年度第1回評議員会開催について説明があり、満場一致をもって承認されました。

#### 【報告案件】

#### 1、定款の変更の件

令和6年度以降の組織体制へ変更するにあたって必要な定款の変更箇所について事務室より説明がありました。

#### 2、業務執行理事からの執行報告の件

業務執行理事より報告がありました。主に令和5年度文部科学省委託研究事業、3月8日から配信開始したオンデマンド研修、令和6年度ECEQ<sup>®</sup>コーディネーター養成講座、刊行物の発行状況、新システムの移行状況について報告がありました。

(専務理事 加藤篤彦)

令和6年度事業計画書・収支予算書はこちら



# 機構からのお知らせ

【令和6年3月8日開始!】

## 令和6年度第1期オンデマンド研修40コンテンツが配信中です!

ゆたかなまナビは全国の先生方によりよい学びの機会を提供することを目的に、各地区から提供された優良研修コンテンツを中心に様々な研修コンテンツを配信しています。

研修会場への距離や受講する時間が合わないなどのハードルを超えてだれでもいつでも学びたい時に学べる環境を整え、全国の園の質の高い教育・保育を支えてまいります。



### オンデマンド研修 概要

- 申込期間：～令和7年2月27日（木）17時
- 配信期間：～令和7年2月28日（金）17時
- 申込方法：教職員登録の上、ゆたかなまナビよりお申し込みください。
- 受講料：研修によって異なります。ゆたかなまナビでご確認ください。
- 支払方法：クレジットカード決済（今後支払方法は拡大予定です。）
- 受講方法：お申込後、登録したメールアドレスに届くメールもしくは、ゆたかなまナビマイページに掲載の動画視聴URLより受講ください。
- 研修スタンプ：研修受講後、3択5問の設問に回答し、80%以上の正解で研修スタンプを取得することができます。（追試は2回まで）
- 処遇改善等加算Ⅱ：対応しています。

### 令和6年度第1期オンデマンド研修コンテンツ一覧

| 講演名  | 講師名／肩書   | 時間数 | 俯瞰図<br>番号 |
|--|--|-----|-----------|
| 小児のアレルギーについて   | 野上 哲夫（野上小児科医院 院長）  | 1.5 | A2        |
| （安全・衛生シリーズ）乳幼児の重大事故・死亡事故の実態と事故予防～子どもの命と安全を守るために～       | 藤井 真希（赤ちゃんの急死を考える会（ISA）、保育の重大事故をなくすネットワーク）   | 1.0 | A2        |
| リスク・マネジメント   | 飛田 隆（茨城キリスト教大学文学部児童教育学科 教授）  | 2.0 | A3        |
| 食物アレルギーの最新基礎知識と対応                                      | 小川 雄二（名古屋短期大学 教授／桜花学園大学 副学長／名古屋短期大学附属幼稚園 園長）                                       | 2.0 | A3        |
| 第3回「子ども理解と記録」  | 中橋 美穂（大阪教育大学教育学部教員養成課程初等教育部門 教授）   | 2.0 | B2        |
| 子どもの育ちと学びを支える遊びの指導について～豊かな学びを目指して～                     | 江玉 睦美（東九州短期大学幼児教育学科 教授）  | 1.5 | B3        |
| （教材研究シリーズ）造形遊び「描画活動をアップデートしよう」                         | 今川 公平（木の実幼稚園 園長）   | 1.5 | B3        |
| 植物遊びのススメ   | 出原 大（むぎの穂保育園 園長）   | 1.0 | B3        |
| 保育現場でなぜICTを導入する必要があるのでしょうか？                            | 西尾 真吾（VISH株式会社 執行役員）   | 1.0 | B4        |
| 幼稚園教育（保育）が面白く、楽しくなるためには？～仕事を続けるために～                    | 汐見 稔幸（東京大学 名誉教授）   | 2.5 | B4        |
| 主体性を大切にしたい保育とは何か～主体性に対する考え方の変遷から主体性を定義する～              | 井内 聖（学校法人リズム学園 園長／北海道文教大学 客員教授）、渡邊 日向子（恵庭幼稚園 保育教諭）、立田 祐理（恵庭幼稚園 指導教諭）               | 1.5 | B5        |
| ごっこ遊びの事例から、人間関係の学びを考える                                 | 大澤 洋美（東京成徳短期大学幼児教育学科 教授）、小倉 庸寛（吉田保育園 園長）   | 1.0 | B5        |
| 「おいしいね！」がもたらすいくつもの力（パワー）～子どもたちに育っているチカラ・私たちが実感しているチカラ～ | 河邊 貴子（聖心女子大学教育学科教育学専攻・初等教育学専攻 教授）、小山 牧子（泉山幼稚園 教諭）、小山 智子（泉山幼稚園 教諭）、船越 真里戸（泉山幼稚園 教諭） | 1.0 | B5        |
| 労務中級1  | 安岡 知子（社会保険労務士法人人財総研）   | 0.5 | B6        |
| 労務中級2  | 安岡 知子（社会保険労務士法人人財総研）   | 0.5 | B6        |
| 労務中級3  | 安岡 知子（社会保険労務士法人人財総研）   | 0.5 | B6        |

| 講演名   | 講師名／肩書  | 時間数 | 俯瞰図番号 |
|---|---|-----|-------|
| 新任保育者の育ちを支えるためにーともに学び、育ち合う園を目指してー             | 安達 譲 (せんりひじり幼稚園・ひじりにじいる保育園 園長)  | 1.0 | B6    |
| これからの私立幼稚園の在り方を考える①園長のリーダーシップと組織運営            | 上田 敏丈 (名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間の成長と発達分野 (社会と教育) 教授)                          | 2.5 | B6    |
| (子どもの発達シリーズ) 知覚の発達                            | 加藤 正晴 (同志社大学赤ちゃん学研究センター 准教授)  | 1.5 | C2    |
| (子どもの発達シリーズ) 発達理解の視点と子どもの発達の時代による変化           | 大谷 多加志 (京都光華女子大学心理学研究科臨床心理学専攻 准教授)                                      | 1.0 | C2    |
| (子どもの発達シリーズ) 子どもの主体性を育む保育の役割                  | 川田 学 (北海道大学教育学研究院乳幼児発達論研究室 准教授)   | 1.5 | C2    |
| 「社会に開かれた教育課程」ということを考える                        | 汐見 稔幸 (東京大学 名誉教授)   | 2.5 | C3    |
| 子どもの育ちと経験の理解                                  | 大橋 功 (和歌山信愛大学教育学部子ども教育学科 教授)  | 1.0 | D1    |
| これからの私立幼稚園の在り方を考える②幼稚園教諭のキャリアと組織開発            | 上田 敏丈 (名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間の成長と発達分野 (社会と教育) 教授)                          | 2.5 | D1    |
| 保育記録の書き方と生かし方ー自分の保育をブラッシュアップしよう!ー             | 田代 幸代 (共立女子大学家政学部児童学科 教授)   | 2.0 | D2    |
| (特別支援シリーズ) 障がいのある子どもやその可能性がある子どもの保護者支援        | 木曾 陽子 (大阪公立大学大学院現代システム科学研究科現代システム科学専攻 准教授)                              | 2.0 | D3    |
| (特別支援シリーズ) 子ども理解と関わり方の視点                      | 伊丹 昌一 (梅花女子大学心理こども学部心理学科 教授)  | 1.5 | D3    |
| インクルーシブ教育を考えるー特別な支援が必要な子どもたちと共にある保育ー          | 加藤 篤彦 ((一財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 専務理事)                                      | 3.0 | D3    |
| カリキュラム・マネジメント                                 | 飛田 隆 (茨城キリスト教大学文学部児童教育学科 教授)  | 2.0 | E1    |
| (教材研究シリーズ) 科学遊びー気づき、発見、試行錯誤、工夫が生まれる保育のためにー    | 瀧川 光治 (大阪総合保育大学児童保育学科 教授)   | 1.5 | E2    |
| (子ども理解シリーズ) 第30次プロジェクト 幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメント | 瀧川 光治 (大阪総合保育大学児童保育学科 教授)   | 1.5 | E3    |
| (保育環境シリーズ) 園庭づくり                              | 小倉 庸寛 (愛泉幼稚園 園長)、田中 康雄 (光明幼稚園 園長)、中丸 創 (かえで幼稚園 副園長)、丸谷 雄輔 (札幌ゆたか幼稚園 園長) | 2.0 | E4    |
| 子ども主体で遊びが充実するための環境構成と保育者の在り方                  | 阿南 寿美子 (西南女学院大学短期大学部保育科 准教授)  | 1.0 | E4    |
| 身近にいる生き物 (虫) と子どもたちとのかかわりを各園の先生たちと考えよう        | 丸山 宗利 (九州大学総合研究博物館 准教授)   | 1.5 | E4    |
| わたしはわたし みんなのなかのわたし                            | 安家 周一 ((一財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事長)                                       | 1.5 | E4    |
| 領域表現・再考 表現する子どもたちを読み取ろう                       | 鈴木 裕子 (愛知教育大学幼児教育講座 教授)   | 2.5 | E5    |
| 子どもの姿に基づく保育の実践と評価ーカリキュラム・マネジメントー              | 北野 幸子 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授)  | 2.0 | E7    |
| 家族の子育て・パパの子育てーみんなで子育て考えようー                    | 小崎 恭弘 (大阪教育大学教育学部健康安全教育系 教授)  | 1.0 | F2    |
| チームで取り組む子育て支援                                 | 澤田 真弓 (兵庫大学教育学部教育学科 准教授)  | 1.5 | F2    |
| (子育て支援シリーズ) カウンセリング概論                         | 菅野 信夫 (京都橘大学総合心理学部総合心理学科 教授)  | 1.5 | F2    |

**令和6年6月3日、令和6年12月2日にも新規コンテンツを配信する予定です  
ゆたかなまナビをチェックして、研修の受講をご検討ください!**

配信コンテンツには、すでに各都道府県私立幼稚園団体等で配信したコンテンツも含まれますので、お申込み時にはご注意ください。

## 機構からのお知らせ

### 令和6年3月1日より運用を開始している、 幼児教育研修システム「ゆたかなまナビ」をぜひご活用ください!

令和6年3月1日より、幼稚園ナビの研修機能の代替システムとして「ゆたかなまナビ」が、運用を開始しています。

幼稚園ナビと同様、研修の申込から受講までの手続きや研修を受講した履歴の管理まで行うことができます。また、教職員マイページや設置者の管理画面の利便性の向上、学びや幼児教育の質向上を目指し、新機能の開発や既存機能の改善等を継続的に検討し、必要に応じて実装する予定です。

また、幼稚園ナビを利用して研修の受講を行っていた方の履歴等も移行手続きを行うことで、「ゆたかなまナビ」に引き継ぐことが可能です。

右記URLより、「ゆたかなまナビ」各ページにアクセス可能ですので、ぜひ利用を開始してみてくださいいかがでしょうか。

【ゆたかなまナビ各ページURL】

■教職員マイページログイン画面

<https://yutakanamanabi.kdg.jp/user/staff/login>

■設置者管理画面ログイン画面

<https://yutakanamanabi.kdg.jp/company/login/pref>

※ログインIDとパスワードは、幼稚園ナビに使用していたものと同じです。

【ゆたかなまナビ利用開始手続き】

初回ログイン時に利用規約と幼稚園ナビの情報移行に同意いただくと、ゆたかなまナビの利用が開始されます。

### 令和6年度賛助会員（園児の保護者等）入会申込について

当機構の賛助会員入会の御礼として、「こどもがまんなかしんぶん」を配布しています。こどもがまんなかしんぶんは、幼児教育の重要性やご家庭で子どもたちと過ごす時間を豊かにする情報を掲載しており、多くの方より反響をいただいております。

賛助会員への入会は随時受付しております。入会を希望される方は、賛助会員入会申込書への必要事項の記入と賛助会費の納付により、お申込みをお願いいたします。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

【こどもがまんなかしんぶんについて】

■会費：1口・年間250円

■入会特典：年10回（8・3月休刊、紙媒体6回、デジタル配信4回）

詳しくは当機構のHP

(<https://youchien.com/with-home>)

に掲載されておりますのでご覧ください。



こどもがまんなかしんぶんについての案内ページ ▲



株式会社 ニシハタシステム

園業務のお悩みを  
**IP無線機**  
で解決します!



タレント・俳優  
杉浦太陽